

ウンカ情報第4号

平成29年9月11日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トビイロウンカによる坪枯れが発生！ 坪枯れに要注意！

1 発生状況及び今後の発生予想

- (1) 本田調査において6月下旬に豊田市、7月下旬に岡崎市のほ場で本種（図1及び図2）を確認しています。
- (2) 9月8日時点で新城市内5地点16ほ場で本種による坪枯れを確認しました。主にカメムシ防除を行っていないほ場で発生しています。
- (3) 今後も本種の発生に好適な気象条件が続くと予測されており、坪枯れの発生ほ場が増えると思われます。

2 防除対策

- (1) 本種は地域やほ場により発生状況が異なるため、ほ場の見回りを十分に行い、本種が寄生している場合は、直ちに防除しましょう。
- (2) 坪枯れが確認されたほ場周辺では、本種が発生している可能性が高いので、早急に防除しましょう。
- (3) 本種は株元に生息するので、液剤や粉剤を使用して防除する場合は、株元に薬剤が十分かかるように散布しましょう。
- (4) 粒剤を使用する場合は水田を湛水し、早急に散布しましょう。
- (5) 防除薬剤は表を参考に選択しましょう。
- (6) 収穫期近くになって坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く刈りとりましょう。

表 トビイロウンカに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用回数	系統名	IRACコード
キラップフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	フェニルピラゾール	2(B)
キラップ粉剤DL				
チェス水和剤	収穫14日前まで	2回以内	ピリジンアゾメチン	9(B)
トレボン乳剤	収穫14日前まで	3回以内	ピレスロイド	3(A)
アルバリン/スタークル粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド	4A
アルバリン/スタークル粒剤				
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤				
スタークル液剤10	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド	4A
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内	ピレスロイド	3(A)

使用回数には同一成分の剤を含む回数を含む。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2017/mechanism_irac.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める

3 トビイロウンカについて

(1) 形態

成虫は体長4～5mm、光沢のある褐色をしており、翅の長さによって長翅型、短翅型に分けられます(図1)。幼虫は黄褐色から黒褐色をしています(図2)



図1 トビイロウンカ成虫(長翅型)



図2 株元に群がる成虫、幼虫

(2) 生態

本種は日本では越冬できず、毎年梅雨時ころからジェット気流に乗って中国大陸から移動してきます。飛来する時期が早く、飛来数が多いほどその後の発生量が多くなります。気温の高い時期は1ヶ月もかからず、世代を繰り返します。

(3) 被害

本種は成虫、幼虫ともに稲を吸汁加害します。寄生虫数が増加(図2)すると、稲が急激に萎凋して枯れる坪枯れ(図3、4)と呼ばれる被害となり、収量や品質が低下します。



図3 坪枯れ(新城市、平成29年9月8日)



図4 坪枯れ(赤矢印)及び
坪枯れの初期症状(青矢印塗り潰し)

4 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話: 0561-62-0085 (内線471)